



令和8年度チーム学校生徒支援体制整備事業 第1回いじめ・不登校未然防止連絡協議会 令和8年6月4日（木）

児童生徒の問題行動の未然防止と対応について考える ～学校と警察等関係機関との連携をどう図るか、事例検討から学ぶ～

講師：山形警察署 生活安全第二課生活安全係 調査官 小林 智佳子 氏

今年度のいじめ・不登校未然防止連絡協議会は、「関係機関との連携」をテーマに行います。生徒指導上の課題が年々多様化・複雑化する中、関係機関との適切な連携のもと、チームとして児童生徒を支える体制が大きな問題の未然防止につながります。

第1回は、学校と警察の連携についての講義と『いじめの重大化を防ぐための研修用事例集（こども家庭庁資料）』を用いた事例検討を行い、自校の取組みとして必要なこと等について考えることができました。



～対応のポイント～

○ 警察との連携（いじめ問題の場合）について

犯罪行為にあたるかどうかの判断が必要になる。起きていることを見逃さないことが大切であるため、迷ったときは警察に相談する。

※参照『警察に相談又は通報すべきいじめの事例』

いじめ問題への的確な対応に向けた警察との連携等の徹底について

（令和5年2月7日文科科学省通知：文科省HPに掲載）

◇学校が警察との連携のために明確にすべきこと

- ・これまで学校はどのような対応をしてきたか。
- ・被害の児童生徒、保護者は、どうしてほしいのか。
- ・今後、学校ではどのようにしていくのか。

○ SNSトラブルについて

緊急性があり、犯罪と判断されることが多い。そのため、警察に対応を相談する。

◇学校が留意すること

- ・画像等の拡散の対象（学校内、他校生、面識のない人等）を把握する。
- ・掲載内容は、証拠となるため消去せずに端末そのものを警察に提出する。学校等で内容を別の端末に保存すると、学校が罪に問われることもある。
- ・何度も聞き取りをすることにより、児童生徒の話が変わってくることもある。さらに、被害者の心的負担を減らすためにも、あえて学校で聞き取りをせず、専門家につなぐことも必要となる。

第2回（10月2日（金）開催）は、不登校未然防止と不登校児童生徒の支援について、民間支援団体との連携を考えていきます。ぜひ御参加ください。

幼保小中接続推進研修



令和8年6月22日（月）
山形県教育センター

今年度は幼稚園・認定こども園中堅教諭等資質向上研修と兼ね、総勢120名の先生方にお集まりいただき、山形大学教授 野口徹氏から御講義をいただきました。子どもたちが自ら人生の舵を取り、深い学びを実現するための架け橋期の大切さについて学びました。

1 学びのバトンを途切れさせないための環境づくり

「人の話を聞く力」や「気持ちを伝える力」といった「学びに向かう力」が、小学校入学後に落ち込んでしまうという課題があります。幼児期の遊びの中で発揮されていた「工夫し、やり抜く力」を、自己調整のサイクル（【予見】【遂行】【内省】）に乗せて繋いでいくことが大切です。子どもが目標を明らかにし、どのように進めていくか見通しをもち、試して、考えて、また試して、と一人ひとりが探究しながら学べるように、教師は環境を整えていくことが重要です。



2 「10の姿」を共通言語にした語り合いから始まる架け橋づくり

架け橋期のカリキュラムづくりは、「幼児期に育みたい10の姿」をもとに、幼小の教員が語り合うことから始まります。具体的な子どもの姿をもとに幼小での対話を積み重ね、徐々にできていくのが架け橋期のカリキュラムです。例えば、午前中の20～30分、園や小学校の活動を参観し、放課後30分、「10の姿」をもとに話し合うなど、各園や学校で行っていることを見直し、できそうなことから少しずつでも始めていくことが、幼児期と小学校以降の教育をつなぐ第一歩となります。



幼小で子供たちの育ちを一緒に喜び、対話を重ねることから「架け橋」を築いていきませんか？



幼稚園
教諭

「10の姿」で子どもの姿を見取り、育ちや可能性を伸ばせるような環境づくりや関わりを大切にしたい。そして、様々な力を発揮しながら過ごす幼児期の姿を地域の小学校の先生方と共有したい。



小学校
教諭

日々の指導が、幼児期を踏まえたものや子どもの好奇心・やる気を活かしたものになっているか、立ち止まって考えてみたい。また、「好きを育み得意を伸ばす」ために、目の前の子どもをしっかりと見取りたい。



令和8年度青少年地域活動・ボランティア活動推進事業

会場：イオンモール天童イオンホール
天童子育て未来館げんキッズ

6月27日（土）、村山地区の中学生を対象に「MY ボランティアスタートアップセミナー」を開催しました。今年度は59名の中学生が参加し、イオンモール天童と天童子育て未来館げんキッズの2会場でボランティア活動を体験しました。

参加者の感想

尾花沢市「風ぐるま」、大石田町「二十四孝 PART II」のメンバーがバルーンアート、大江町「夢憧布」のメンバーが子ども向けの体操を教えてくださいました。

- ・ボランティアをすることは少しハードルが高感じていましたが、セミナーを通して、自分にもできることがあると気付きました。子どもたちにバルーンを渡して喜んでもらえたことが、とても嬉しかったです。
- ・体を動かすことが好きなので体操を担当しました。子どもたちが楽しめるように大きく踊ったり、間奏では小さい子どもたちのところへ行ってタッチをしたりして、一緒に楽しい時間を過ごすことができました。
- ・セミナーに参加する前は、自分にもできるのだろうかという不安がありましたが、ボランティアをすることで、自分自身の成長にもつながると実感しました。



館内放送で活動をPR！！

作ったバルーンを子どもたちにプレゼントしました！

参加者一人ひとりには、今回の体験を自信にして、今後の活動につなげてほしいと思います。今後も参加者の学びや実践が地域へと広がっていくことを願い、村山教育事務所ではボランティア活動の推進に取り組んでいきます。